

出張報告届

令和7年 11月 10日

吹田市議会議長様

会派名 自民党吹田・無所属の会

代表者氏名 白石 透

出張者氏名 白石 透.....

.....  
.....  
.....  
.....  
.....

下記のとおり出張したので届け出ます。



記

出張先	フェニックス・プラザ
期間	令和7年10月 30日から 10月 30日まで 1日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	中核市サミット 2025in 福井 ～一人ひとりが紡ぐ 希望あふれるまちづくり～

中核市サミット 2025 IN 福井 報告書

幸福を実感できる中核市の実現

～一人ひとりが紡ぐ希望あふれるまちづくり～

日程；令和7年10月30日（木）

場所；フェニックス・プラザ

講演者・パネリスト

宇野 重規 東京大学社会科学研究所 教授

富山市長・西宮市長・福井市長・岐阜市長・豊田市長

松江市長・山形市長・八王子市長・吹田市長

中核市は、平成8年の制度発足以降、地域の中核を担う都市として、また市民に最も身近な基礎自治体として、地方分権の推進と地域の発展に大きな役割を果たしてきた一方で各中核市においては、共通して人口減少や少子高齢化が急速に進行しており、財政基盤の縮小や地域経済の停滞、医療・福祉サービス需要の増大といった複合的な課題に直面しています。また、都市化の進展や価値観の多様性に伴い、地域における人と人とのつながりが希薄になりつつあり、コミュニティの担い手不足や孤立問題なども顕在化している。

こうした中、地域の持続的な発展につなげていくためには「楽しいまち、安心できる暮らし、元気な地域産業」の視点から、市民一人ひとりの想いを紡ぎ、まちの未来を育んでいくことが重要です。そのため、中核市は責任と権限を十分に活かしながら、誰もが「このまちに住んでよかった」と実感できるようなまちづくりを、市民とともに進めていく必要があります。

中核市サミット 2025 福井では、「スポーツを通じた楽しいまちづくり」、「地域に密着した安心な福祉体制のあり方」「『元気×イノベーション』～未来を創る地域づくり～」について、中核市の市長が一堂に会して議論を深め、その方策を全国に発信することで、市民が幸福を実感し、希望あふれるまちの未来につなげてまいります。との企画書からの開催であった。

今回私が選択したのは後藤吹田市長がパネリストであることもあり、第3会場での『元気×イノベーション』～未来を創る地域づくり～を選択させてもらった。

コーディネーターに仁愛大学人間学部特任教授の南保 勝さん、コメントーターに福井商工会議所の専務理事嶋田 浩昌さんを迎えて

のパネルディスカッションであった。

山形市長は山形市が目指すまちづくりとして健康医療都市・文化創造都市を掲げ、小学校の旧校舎をリノベーションし、創造都市山形の拠点施設を整備し、そこには多くの専門家、企業が参入し、実績として約3年間で来館者数が50万人を超えテナント入居率は100%、シェアオフィス入居率は75%の数値実績が報告された。

八王子市長は八王子市内に、(株)明治・日清食品ホールディングス(株)・(株)ニッスイ・オリンパス(株)・コニカミノルタ(株)・佐藤製薬(株)・(株)スリーボンド・(株)東京精密などの多くの大企業の部門があり、基本理念に、知識・技術・人材が集い、新たな産業・新たなビジネスチャンス・新たな生活様式を創出する【イノベーション都市・八王子】を目指しての試行錯誤、狙い通りにいかなかった事例とともに報告があった。

最後に吹田市長のまちづくりポリシー【獲得すべき副次効果】として健都についての報告があった。副次効果として

医療界の認識 ハイブランドエリア

→進出意欲 格の向上

医療関係者、研究者の居住

→税収 住環境 人口増

周辺地域の不動産価値向上

→固定資産税増収

地域への好影響

→街が変わる

などについての報告があった。

いずれの市長報告も市、まち、地域の特性、性質、近隣地域との影響を考慮した施策が感じられた。行政に携わるものとして、これらの報告を参考にして今後の吹田市のあり方を考えていきたい。